

大学生と農山漁村との連携事例



相愛大学

実施主体名: 管理栄養学科 4回生チーム

担当窓口

相愛大学 人間発達学部 管理栄養学科

URL

<https://www.soai.ac.jp/dep/develop/nutrition/>



活動内容

加工副産物（食品ロス）である生おからと学生食堂から出るコーヒー粕を利用して堆肥作りを試みた。この堆肥と市販されている牛糞堆肥を比較する実証実験を学内の農園で行い、収穫した野菜は学生食堂で提供している。企業（生おからの提供）や農家（農作業の助言）、試験研究機関（実証実験のサポート）と大学が一体となった食品ロス削減に向けた取組を通じて、循環型システムの構築を目指している。



きっかけ

大学が直営する学生食堂から排出される大量のコーヒー粕の活用と学内の農園で実証できる環境であることがきっかけとなり、企業や農家、試験研究機関からのアドバイスを得ながら、食品ロスの削減につながる取り組みを始めることとなった。また「みどり戦略学生チャレンジ」の近畿農政局長賞を受賞したことも、この取組を継続する励みになっている。



展望

コーヒーの製造や販売の事業者、コンビニなどとの連携も視野に入れて堆肥作りを軌道に乗せ、できた堆肥は定期的に地域の農家に還元できるようにしたい。また、そこで収穫された農作物を学生食堂において低価格で、かつ、継続的に提供できるように、さらなる循環型システムの拡充を図りたい。



（生おからとコーヒー粕）



（コンポストで堆肥を試作）



（学内農園での堆肥実証実験）



（収穫した野菜を学食で提供）